

研究主題「道徳的判断力を育む道徳科の指導の工夫

ー議論の中で、判断の根拠を比較・検討する学習活動を通してー」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
杉並区立東田中学校 教諭 戸上 琢也

第1 研究のねらい

平成27年3月、学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び学習指導要領の一部改正に関する告示が公示された。小学校では平成30年度から、中学校等では平成31年度から、それぞれ施行され、これまでの「道徳」が「特別の教科 道徳」（以下、道徳科という）と改められる。

道徳の教科化に当たっては、「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図るもの」（「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」）と示された。

その背景には、いじめ問題等への対応があり、生徒が現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性のある力を育成していくことが道徳教育に強く求められたことにある。したがって、道徳科の授業では、道徳的諸価値の理解を基に、生徒が直面する様々な状況において何が問題かを見極め、自分はどうすべきか、自分に何ができるかなどを判断し、そのことを実行する手だてを考え、実践できるようにするなどの改善が重要であると考えられる。

そこで、本研究では、議論を通して、多面的・多角的に考え、自分なりのよりよい判断を導き出すという道徳的判断力の育成をねらいとする。そのために、生徒同士が自分の考えについて判断の根拠を比較・検討する学習活動を取り入れた道徳的判断力を育む指導法を開発する。

第2 研究仮説

議論の中で、生徒同士が自分の考えについて判断の根拠を比較・検討する学習活動を行えば、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができ、道徳的判断力を育むことができるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

道徳的判断力の育成に当たっては、教材を通して、様々な状況の中で何が問題かを見極め、解決していくことが大切であると考えられる。そのための有効な指導法の工夫として、問題解決的な学習が挙げられる。道徳科において、問題解決的な学習とは、生徒同士が協働的な話し合い（議論）を通して、道徳上の問題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し、生徒一人一人が答えを導き出すことである。問題解決的な学習における議論では、生徒同士が自分の考えになかったものを取り入れたり、相手の考えを尊重したりし、よりよい判断をもつことが重要となる。

ここでいう道徳上の問題とは、「①道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題、②道徳的諸価値についての理解が不十分又は誤解していることから生じる問題、③道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤が生じる問題、④複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題」（文部科学省「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」平成28年7月）の4つである。

2 調査研究

平成28年7月、都内公立中学校5校の第1学年生徒を対象に、道徳科における話し合い活動

に関する調査を質問紙法により行い、541名から回答を得た。

「他の人の考えに対して質問したり、自分の考えを述べたりしているか」という項目で、「当てはまる」と回答した生徒は25%であった。また、「他の人と話し合ったことを、日常生活でも思い出すことや考えることがあるか」という項目で、「当てはまる」と回答した生徒は36%であった。これらのことから、話し合い活動の中で他者との意見交流が少ないことと、話し合ったことが日常生活において実行性のある力につながっていないことが分かった。

そこで、問題解決的な学習において、他者に質問したり、自分の考えを述べたりする場面を設定し、生徒同士が自分の考えについて判断の根拠を比較・検討する学習活動を行うことで、自分の考えや行動を見直すことができると考えた。また、自分の考えや行動を見直すことは、日常生活でも道徳的諸価値について考えたことを思い出すことにつながり、よりよい判断のきっかけになると考える。

3 開発研究

(1) 道徳的判断力を育む学習指導過程

道徳的判断力を育む学習指導過程として、問題解決的な学習を取り入れる(図1)。展開において、感想の交流から生徒が印象に残った場面に関する主人公の行動について問い、教材の中で価値理解を深める。その後、ねらいにせまるための中心的な場面について、判断を問う課題として、「もし、あなただったら、どうするか。」

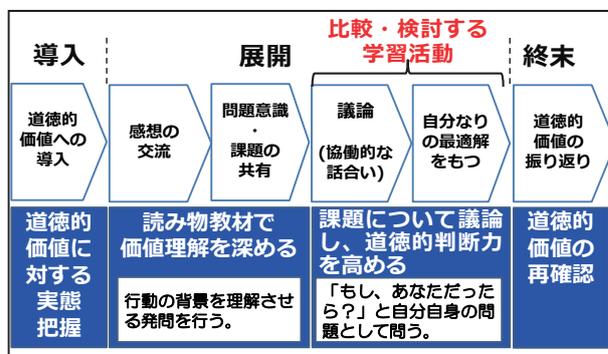


図1 道徳的判断力を育む学習指導過程

という課題を提示し、根拠を基に議論する。この議論の中で、判断の根拠を比較・検討する学習活動を取り入れ、多面的・多角的に考えさせる。

(2) 判断の根拠を比較・検討する学習活動

ア 学習活動の工夫

判断の根拠を比較・検討する学習活動は、4つのSTEPからなる(図2)。まず、STEP1では、課題に対する自分の考えを青色の付箋紙に、その根拠や理由をワークシートに記入する。STEP2は、4人程度の小集団になり、自分の考えを発表する段階である。STEP3は、



図2 判断の根拠を比較・検討する学習活動

他者の考えに対して自分の考えや意見を述べる。この際、他者の考えに共感したことを赤色の付箋紙に、もっと詳しく聞きたいことを黄色の付箋紙に記入し、それを基に議論する。

この活動で、最も重要なのがSTEP4である。議論を通して、自分とは異なる価値に気付いたことを基に、もう一度課題について考え直す段階を設定した。このことによって、生徒一人一人が、自分の考えを見直すことができ、よりよい判断をもつことができると考える。

イ 「考え、議論する道徳科ワークシート」の作成

判断の根拠を比較・検討する学習活動を行うに当たって、付箋紙を活用した議論ができることと、議論の前後で課題に対する自分の考えの変化・変容を見ることができるよう、「考

え、議論するワークシート」を作成した。

ウ 「議論するシート」の作成

議論する際に、付箋紙を見せ合い、互いの考えを可視化できるように、「議論するシート」を作成した。議論した後は、自分の考えを書いた付箋紙をワークシートに戻すとともに、他の人からもらった共感したことやもっと詳しく聞きたいことの付箋紙も自分自身のワークシートに貼り付け、後からワークシートを見たときに学習内容が分かるようにした。

4 検証授業

(1) 授業の概要

表 1 検証授業の概要

平成 28 年 10 月、都内公立中学校第 1 学年生徒を対象に検証授業を実施した。本時で取り扱った教材の主人公が会う道徳上の問題は、「道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそう

検証の目的	判断の根拠を比較・検討する学習活動を取り入れた道徳的判断力を育む学習指導過程を実践し、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考え、自分の考えや行動を見直し、よりよい判断をもつことができたかを検証する。
対象	都内公立中学校第 1 学年生徒(3 学級・103 名)
主題	良心の目覚め(内容項目:「よりよく生きる喜び」)
教材	「銀色のシャープペンシル」(文部省『道徳教育推進指導資料(指導の手引)3 中学校』)
あらすじ	主人公の「ぼく」は、掃除の時間に落ちていたシャープペンシルを見つけ、自分のものにしてしまう。持ち主の卓也にとがめられるが、自分で買ったものだと言ってしまう。その後、誰もいない教室のロッカーにシャープペンシルを入れておいた。帰宅後、卓也から電話があり、疑ったことを謝られ、「ぼく」の心が揺れ動く。
ねらい	人間はだれもが弱さや醜さがあることを理解するとともに、自分自身の内なる良心に従いよりよく生きていこうとする道徳的判断力を育てる。
課題	もし、あなただったら、この後、卓也にどんなことを話すか。それはなぜか。(満天の星空を見上げ、ゆっくりと向きを変え、卓也の家に向かった場面)

できない自分との葛藤が生じる問題」である。授業の概要は、表 1 に示した通りである。

(2) 授業における生徒の発言の分析

本時の議論の課題は、生徒が感想の交流の中で最も印象に残った場面である。議論の様子を図 3 に示した。

「もし、あなただったら」と問うことにより、生徒は主人公の気持ちに重ね合わせながらも、自分自身の切実な問題として考え、議論することができていた。また、課題に対して判断した結果が、「本当のことを言う」など、「よりよく生きる喜び」の価値にせまるものでも、それらの判断の根拠には、「友情、信頼」(●)や「思いやり」(◆)、「自主、自律」(■)等の道徳的諸価値が含まれていた。この

T	もし、あなただったら、この後、卓也にどんなことを話すか？それはなぜか。
S 1	僕は、本当のことを言う。このまま卓也が自分の勘違いだと思い、卓也が感じることもない罪悪感をもったままだと、その後の関係がよくないものになってしまう。(●)
S 2	私だったら、そのままうそをつきとおす。卓也にうそを言ってしまったし、すぐに自分から本当のことを言えなかったから、今回の件はうそをつきとおすけど、次に生かす。
S 3	それだと、後が気まずくならないかな。僕なら、罪悪感が残るから、正直に言う。(■)
S 4	僕も同じように、本当のことを言う。でも、他のことを話しながら、途中でさりげなくこの話をして謝る。最初から謝るのも気まずいから。
S 2	でも、本当のことを言ったら、逆に友達関係が崩れてしまいそう。(●)
S 3	うそをつきとおす、本当の事を言わないって意見があるけど、それは、人としてどうかと思う。
S 2	その、「人として」ってどういうこと？
S 4	相手の気持ちを考える(◆)ということかな。
S 1	自分のするさをごまかさずに、素直に謝ることだと思う。(※下線部は、道徳的諸価値に関わる発言である。)

図 3 課題に対する生徒の主な発言

ことから、生徒は判断の根拠を比較・検討する学習活動を通して、「よりよく生きる喜び」の多面性に気付き、様々な角度から課題についてよりよい判断をすることができていた。特に、「人として」という生徒の発言によって、人間としての生き方について深く考えることができた。

(3) 議論を終えた後の生徒の記述内容の分析

次に、議論を終えた後の生徒の記述内容の分析を行った。他の人の考えを聞き、改めて道徳的価値について考えさせられたという記述を「他者の考えを聞き、考えを広げたり深めたりした記述」とし、「自分だったら、これから～しよう。」という日常生活での実践意欲につなげよ

うとする記述を「自分自身の問題として捉え、日常生活に生かそうとする記述」と位置付けた(図4)。

「他者の考えを聞き、考えを広げたり深めたりした記述」が、53.1%見られたことから(図5)、半数以上の生徒が他者との議論を通して、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができていたといえる。また、図4に示した下線部の記述にもあるように、実際にそのような場面に出会ったときのよりより判断につながる考えも多く示されていた。

<p>他者の考えを聞き、考えを広げたり深めたりした記述例</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の意見を聞いて、<u>本当のことを言わないと、相手が傷付くのはもちろん、自分も傷付くのだ</u>と思った。 人には失敗はあるけれど、他の人の考えを聞いて、<u>やっではないけないことをしたら、素直に謝り、解決することが大切だと</u>改めて思った。
<p>自分自身の問題として捉え、日常生活に生かそうとする記述例</p> <ul style="list-style-type: none"> もし、今後、<u>自分が何かしてしまったら素直に認めることはもちろん、自分に対して何かしてしまったという他の人からの謝罪や行動を受け入れられるような人になりたい</u>と思った。

図4 議論を終えた後の生徒の主な記述内容

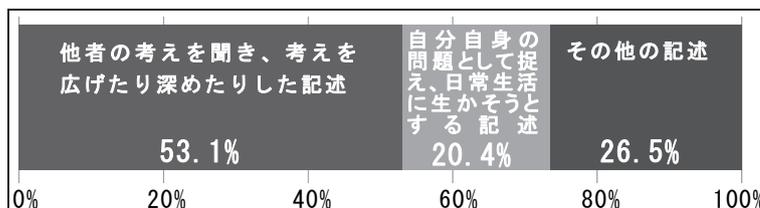


図5 議論を終えた後の生徒の記述内容の内訳

5 事後調査

検証授業実施後(11月)に、実施校にて行った意識調査では、検証授業実施前(7月)の調査研究時の結果と比較した結果、図6に示した通り、「当てはまる」と回答した生徒の割合に変化が見られた。

授業に対する自由意見では、「他の人と考えを比べることで、よりよい考えが見つかった。」や、『自分ならどうするか』について考えることで、今後の人生で、『道徳のとき、こんなことをしたな。』と思い出す瞬間があるだけで、人としてどうするべきかを考えることができると思う。」等の研究のねらいにせまる記述が多く見られたことから、この授業の有効性が確かめられた。

また、付箋紙を用いた活動に対しても「共感してもらうことで、自分の考えを確かに行うことができた。」という意見もあり、手だては相互評価としても有効であったといえる。

<p>○ 「他の人の考えに対して質問したり、自分の考えを述べたりしているか」の「当てはまる」と回答した生徒の割合の変化</p> <p>実施前(7月): 24.5% → 実施後(11月): 58.2%</p>
<p>○ 「他の人と話し合ったことを、日常生活でも思い出すことや考えることがあるか」の「当てはまる」と回答した生徒の割合の変化</p> <p>実施前(7月): 24.5% → 実施後(11月): 28.6%</p>

図6 検証授業後の意識調査の結果(実施校第1学年生徒)

また、付箋紙を用いた活動に対しても「共感してもらうことで、自分の考えを確かに行うことができた。」という意見もあり、手だては相互評価としても有効であったといえる。

第4 研究の成果

- 付箋紙を用いた判断の根拠を比較・検討する学習活動を行うことで、生徒はねらいとする道徳的価値について自分の考えを根拠や理由を基に述べ、他者との議論を通して、多面的・多角的に捉えたり考えを深めたりできた。
- 「もし、あなただったら、どうするか。」と問うことで、生徒は自分自身の問題として考えを深め、日常生活につなげようとする実践意欲が見られた。しかし、この場合は、方法論のみの議論に偏ることがないように、判断の根拠をしっかりと考えさせることが重要である。

第5 今後の課題

- 他の学年の授業や他の教材を使った授業においても、実践を重ね、研究の妥当性を高めていく必要がある。
- 道徳科の年間指導計画において、判断の根拠を比較・検討する学習活動を取り入れた道徳的判断力を育む学習指導過程の位置付けを検討する。